

「平成 18 年豪雪」と余市町の積雪

平成 17 年（2005 年）12 月から平成 18 年（2006 年）2 月にかけて、日本各地で記録的な大雪に見舞われました。気象庁ではこの大雪について「平成 18 年豪雪」と命名、気象庁による豪雪の命名は、「昭和 38 年 1 月豪雪」以来 2 度目となります。北海道立中央水産試験場では、前身となる高島水産試験所時代以来（明治 30 年/1897 年）、水温観測と同時に気象観測も行っています。古いデータは未整理のものも多く、また観測時間帯が異なるものもあり、共通のデータベースとして現在まで利用できるのは、昭和 17 年(1942 年)以降からになります。積雪に関しては、雪尺による積雪の深さの旬毎の最大値を記録したデータが昭和 11 年(1936 年)から 69 年間分あります。この長期にわたって観測されたデータから「平成 18 年豪雪」の状況は、余市では過去と比べてどのようなものだったのか調べました。

図と表をご覧ください。平成 17 年（2005 年）12 月上旬まではあまり雪も降らず、気象庁の当初の発表通り暖冬かと思われました。しかし 12 月 11 日から 12 日にかけて、1 日で 78cm もの積雪があり、12 月中旬において 112cm と、これまでの積雪の最大値 85cm（昭和 17 年/1942 年）を 27cm も超え 63 年ぶりに記録更新しました。なお、平年値（1971-2000 年の 30 年間の平均値）からは 75cm も上回り、これは平年値の 3.0 倍もの積雪になります。この 12 月中旬の積雪の影響によって、その後も表のように平年値の 2~3 倍の積雪となり、12 月上旬から 1 月中旬、2 月上旬と次々に積雪の最大記録を更新しました。

気象庁による全国のデータでは、積雪を観測している 339 地点のうち 23 地点で最大記録を更新し、また 12 月としての最大記録を 106 地点で、1 月としての最大記録を 54 地点で、2 月としての最大記録を 18 地点で更新しました(気象庁報道発表資料)。この最大記録を更新した中には余市町内に 1981 年より設置されているアメダスデータも含まれています。

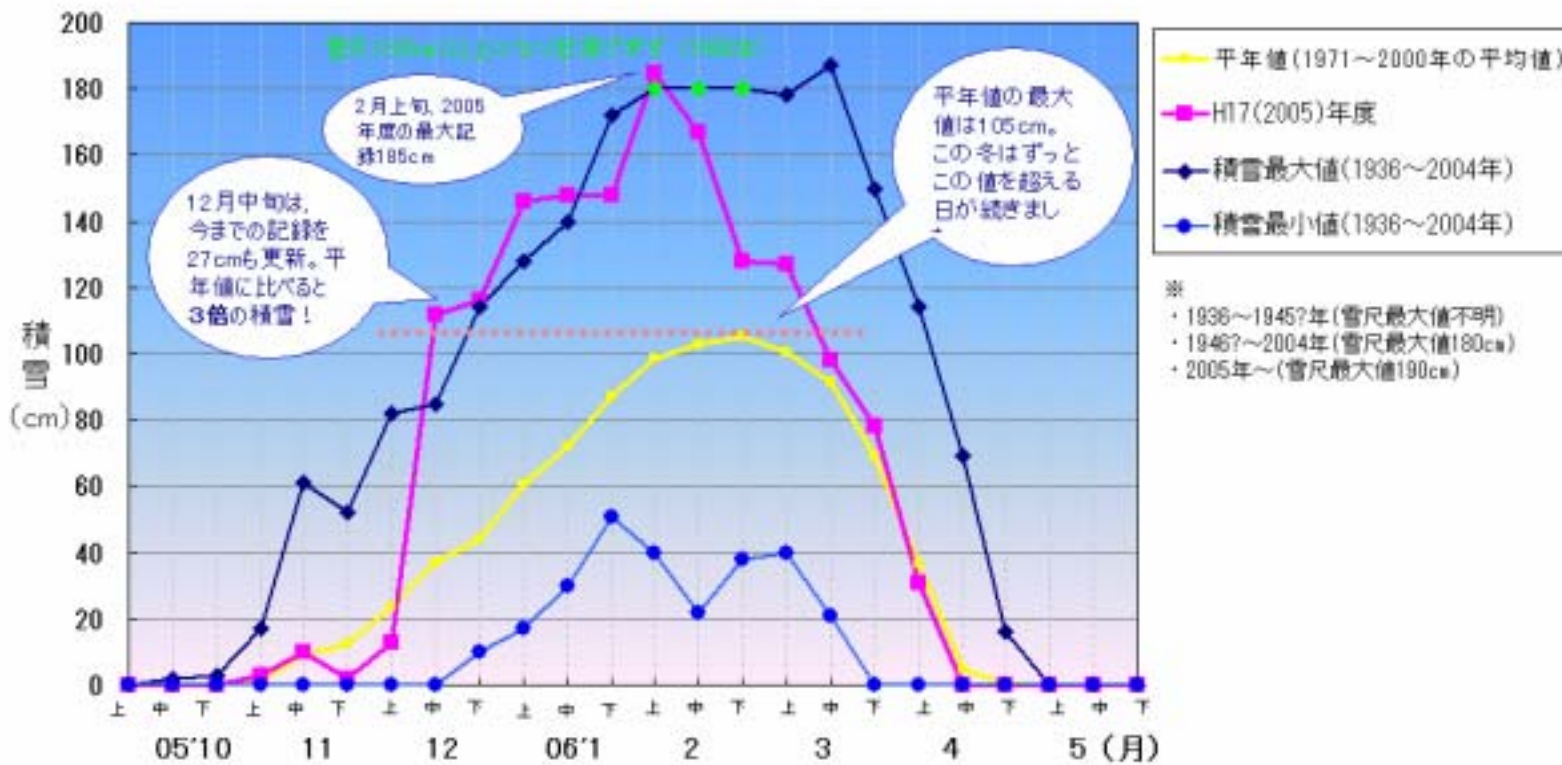
このような大雪になったのは、12 月から 1 月上旬にかけて非常に強い寒気が日本付近に南下し強い冬型の気圧配置が断続的に現れたのが原因と考えられています。また 1 月中旬以降は気温の変動が大きくなり、一時的な大雪と雪崩・融雪が繰り返される状況が続きました（気象庁報道発表資料）。この「平成 18 年豪雪」では、余市町のみならず、名古屋や鹿児島、八丈島でも積雪の記録を更新するなど、全国的規模の大雪となりました。特に新潟県、長野県では災害救助法が適用される地域もあり、大雪による交通事故、落雪事故、雪下ろし中の事故など全国で合計 149 人の死者が出るなど人的被害も甚大となり(消防庁資料)、今冬は非常に厳しい冬であったと言えます。

参考

気象庁報道発表資料：平成 18 年 3 月 1 日 冬（12~2 月）の天候

消防庁資料：今冬（平成 17 年 12 月以降）の雪による被害状況等（第 61 報）

（中央水産試験場海洋環境部 澤田真由美 中多章文）



図：余市における積雪の変化（2005-2006年）

表：余市における積雪の状況（2005-2006年）

年	月	旬	積雪(cm)	平年値(cm)	平年差(cm)	平年値からの比率	1936-2004年の最大積雪(cm)	最大値更新
2005年	12月	上旬	13	24	-11	0.5	82	
		中旬	112	37	75	3.0	85	更新
		下旬	116	44	72	2.6	114	更新
2006年	1月	上旬	146	61	85	2.4	128	更新
		中旬	148	72	76	2.0	140	更新
		下旬	148	87	61	1.7	172	
	2月	上旬	185	99	86	1.9	180	更新
		中旬	167	103	64	1.6	180	
		下旬	128	105	23	1.2	180	
	3月	上旬	127	101	26	1.3	178	
		中旬	98	91	7	1.1	187	
		下旬	78	69	9	1.1	150	